

# 平成 30 年度環境省行政事業レビュー外部有識者会合

## 議事概要

1. 日 時：平成 30 年 5 月 10 日（木） 16:30～18:00
2. 場 所：中央合同庁舎第 5 号館 19 階 環境省 第 2・第 3 会議室
3. 有識者：

### 環境省選定外部有識者

いながき たかし  
稲垣 隆司 岐阜薬科大学学長

おく まみ  
奥 真美 首都大学東京都市環境学部都市政策科学科教授

こばやし たつお  
小林 辰男 公益社団法人日本経済研究センター研究本部政策研究室長

せき まさお  
関 正雄 明治大学経営学特任教授

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室シニアアドバイザー

にいみ いくふみ  
新美 育文 明治大学法学部専任教授

### 内閣官房行政改革推進本部事務局選定外部有識者

うえむら としゆき  
上村 敏之 関西学院大学経済学部教授

おおた やすひろ  
太田 康広 慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授

のぐち はるこ  
野口 晴子 早稲田大学政治経済学術院教授

#### 4. 議事次第：

- (1) 開会
- (2) 外部有識者紹介
- (3) 平成 30 年度行政事業レビュー公開プロセス対象事業の選定について
- (4) その他
- (5) 閉会

#### 5. 議事概要：

○事務局より公開プロセス対象候補事業として、以下の 6 事業を提示。

- ・環境金融の拡大に向けた利子補給事業
- ・石綿問題への緊急対応に必要な経費
- ・排出・吸収量世界標準算定方式確立事業拠出金等
- ・国際的水環境改善活動推進等経費
- ・地球規模生物多様性モニタリング推進事業
- ・循環型社会形成推進等経費

○公開プロセス対象候補事業の選定経緯及び個別事業の概要と論点について、会計課長から説明。

○外部有識者からの主なコメント

##### ➤ 環境金融の拡大に向けた利子補給事業

- ・CO2 削減コストが安価である点について、利子補給がなかったとしても実行されたであろう融資の金額も含めて CO2 削減効果を算出してしまっているのではないか。
- ・事業による融資の有無による効果検証ができない点からも、EBPM の観点から考えるとエビデンスの裏付けがないということになるのではないか。
- ・銀行に対する補助金とみられるのではないか（融資先が破綻した場合（不良債権化した場合）に金利分が税金から補填されるという点から）。
- ・資金調達方法が多様化している中、利子補給を行うことで今後も新規件数は増えていくのか。見通しは。
- ・信用保証でも同様のことを行っているのではないか。

##### ➤ 石綿問題への緊急対応に必要な経費

- ・石綿被害と判定された方々に対する補償金は入っているのか。
- ・当施策のアウトカム、アウトプットはどのようなことを想定して設定しているか。

- ・アウトカムとして、中長期的なアウトカムを検討していないのか（周辺住民の健康が改善された、石綿による健康被害が改善された等）。
- ・石綿疾病の認定について、間違っただ判定をすることはしないのか。
- ・一人親方について、労災保険の加入の有無に関わらず、給付の点で同じ扱いをうけるというのは公平性に欠けているのではないのか。

➤ 排出・吸収量世界標準算定方式確立事業拠出金等

- ・コメントなし

➤ 国際的水環境改善活動推進等経費

- ・日本の技術がアジア諸国で活用されている実績はどのくらいか。
- ・事業終了予定年度が明記されていないが、出口戦略はどのように考えているのか。
- ・メンテナンス等に係る人材育成はどのように行うことを考えているのか。
- ・当該経費の中にある2つの事業について、パッケージとしての相乗効果はどのように考えているか。

➤ 地球規模生物多様性モニタリング推進事業

- ・コメントなし

➤ 循環型社会形成推進等経費

- ・コメントなし

○とりまとめ

外部有識者による投票の結果、「環境金融の拡大に向けた利子補給事業」8票、「石綿問題への緊急対応に必要な経費」1票、「排出・吸収量世界標準算定方式確立事業拠出金等」1票、「国際的水環境改善活動推進等経費」7票、「地球規模生物多様性モニタリング推進事業」3票、「循環型社会形成推進等経費」4票であった。

投票数の多かった「環境金融の拡大に向けた利子補給事業」及び「国際的水環境改善活動推進等経費」を選定し、票数の拮抗した「地球規模生物多様性モニタリング推進事業」、「循環型社会形成推進等経費」については外部有識者間での議論を踏まえ、「地球規模生物多様性モニタリング推進事業」を選定し、あわせて3事業を公開プロセスの対象事業とした。